

## 経営協議会（第2回）議事要録

日 時	令和元年7月11日（木）午後1時00分～午後2時29分
場 所	中会議室
出席者	学長、遠藤、瀬戸、田村、前田、宮内、岡、松岡、中地の各委員
欠席者	佐々木、鈴木、野中、松本の各委員
配付資料	資料1「国立大学改革の動向について」 資料2「中長期的な財政見通しについて」 資料3「国立大学法人における会計監査人の選任について」 資料4「『アドミッションオフィス』の設置について」 資料5「令和2年度概算要求『機能強化促進分』・『基盤的設備等整備分』について」 資料6「国立大学改革方針を踏まえた本学の取りうる方策について」 参考資料「国立大学法人宮城教育大学2019概要」 参考資料「宮城教育大学大学案内2020」 参考資料「宮城教育大学大学院教育学研究科2020年度案内」 参考資料「宮城教育大学教職大学院案内2020」

### 学長挨拶

学長から、開催にあたり挨拶があった後、議事に先立ち、前回経営協議会以降の本学の状況について報告があった。

### 議 事

#### ○議事要録の確認

6月10日（火）開催の経営協議会（令和元年度第1回）の議事要録は、原案どおり確認した。

#### ○報告事項

##### （1）国立大学改革の動向について

議長から概略説明の後、財務担当理事から、配付資料1に基づき報告があった。

##### （2）中長期的な財政見通しについて

財務担当理事から、配付資料2に基づき報告があった。

##### （3）国立大学法人における会計監査人の選任について

財務担当理事から、配付資料3に基づき報告があった。

##### （4）「アドミッションオフィス」の設置について

学務担当副学長から、資料4に基づき報告があった後、意見交換を行ったところ、次の意見等があった。

- ・専任教員の業務が多岐に渡っているので、対応可能なのかよく検討されたい。
- ・専任教員の採用に際しては、統計学にも精通している人材を選ぶなど、慎重に選出すべきである。
- ・高校での英語のスピーキングコンテストに民間英語検定が関わること等に見られる教育自体の民間業者への委託が進む現状や義務教育課程において対面での授業を必要としないことを許容している沖縄県伊計島での通信制高校の取り組みなど大学以外での教育活動及び教育関連企業の動きにも目を向けるべきである。
- ・入試改革は簡単ではないので、学内議論を徹底し、全教員の理解を得られるように努めるべきである。

(5) その他  
なし

○審議事項

- (1) 令和2年度概算要求「機能強化促進分」・「基盤的設備等整備分」について  
財務担当理事から、配付資料5に基づき令和2年度概算要求について説明があり、審議の結果、承認した。  
なお、学外委員から、次の意見等があった。
- ・障がい児教育は、アジア地域での日本の優位性は高く国際的な売り物となり得るため、国からの補助金獲得を視野に入れ、中国・韓国の姉妹校にアピールしてはいかがか。
  - ・情報教員養成には、学内のクラブ活動やサークル等を活用するのが有効である。

(2) その他  
なし

○懇談事項

- (1) 国立大学改革方針を踏まえた本学の取りうる方策について  
議長から、配付資料6に基づき国立大学改革方針を踏まえた本学の取りうる方策について説明があった後、意見交換を行ったところ、次の意見等があり、引続き検討の上、改革を進めることとした。
- ・一法人複数大学との記載があることから、国立大学の教員養成系単科大学の維持・存続について、宮城教育大学が現在の入学定員の維持すること、一法人一大学として堅持することは厳しいのではないか。そうであれば、現在の方針を変更し、国が何を望んでいるかを積極的に改革方針に打ち出す方が良いのではないか。
  - ・学生数が減れば当然、お金も入って来なくなるので、教員数を減らす必要がある。附属学校についても、生徒数が減るということは学部以上に減らすのは難しいとは思いますが改革が必要となる。
  - ・高等教育改革については、改革を検討実施していることを見せていくしかないと思われる。我々としても宮城教育大学を残して欲しいので、できるだけ役割を決めてやっていきたい。

以 上